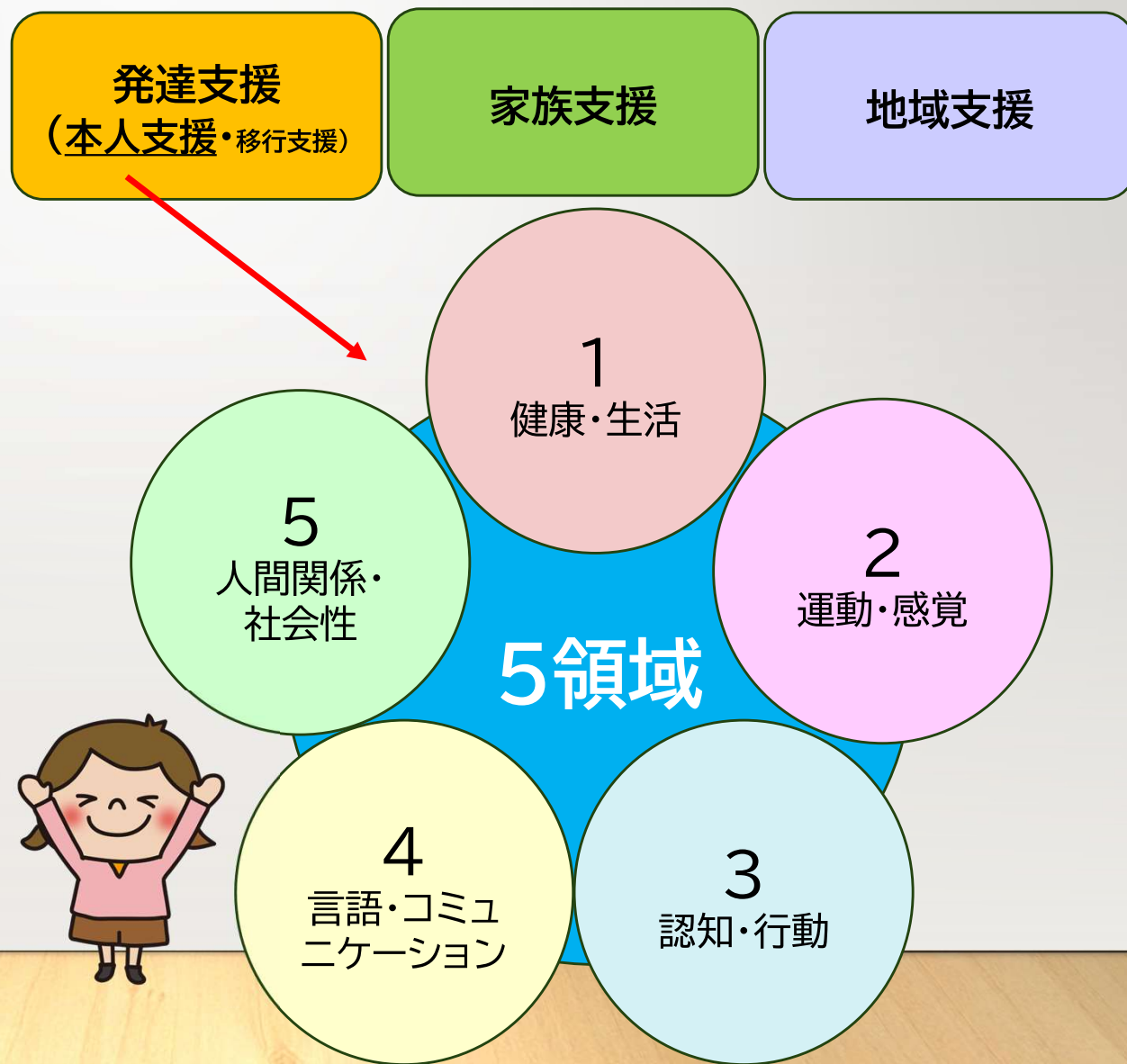


# 5領域について

令和6年度報酬改定により、児童発達支援及び放課後等デイサービスの事業者は、支援において、5領域をすべて含めた総合的な支援を提供することを基本とし、支援内容について事業所の個別支援計画等において、5領域とのつながりを明確化した上で提供することを求められるようになりました。

お子さまに対する「支援」の環境は、大きく分けて「発達支援（本人支援・移行支援）」「家族支援」「地域支援」の三つのカテゴリーに分類されます。それぞれのニーズに応じて、支援の目的・目標を達成するために、必要な支援内容を具体的に提供し、総合的な支援を行っていきます。

カテゴリーの一つ「発達支援（本人支援）」の中で、支援内容が「5領域」に分類されています。その「5領域」に基づく支援プログラムで、お子さまが将来、日常生活や社会生活において円滑に活動できるように支援いたします。



# 児童発達支援ガイドライン

## 1 健康・生活

- ①健康状態の維持・改善 ②生活のリズムや生活習慣の形成 ③基本的生活スキルの獲得

### 【支援内容】

#### ①健康状態の維持・改善

- ・健康状態の把握と対応

健康な心と体を育て、健康で安全な生活を作り出すことを支援する。また、こどもの心身の状態をきめ細やかに確認し、平常とは異なった状態を速やかに見つけ出し、必要な対応をすることが重要である。その際、意思表示が困難であるこどもの障害の特性 及び発達の過程・特性等に配慮し、小さなサインでも心身の異変に気づけるよう、きめ細かな観察を行う。

- ・リハビリテーションの実施

日常生活や社会生活を営めるよう、それぞれのこどもが持つ機能をさらに発達させながら、こどもに適した身体的、精神的、社会的支援を行う。

#### ②生活習慣や生活リズムの形成

睡眠、食事、排泄等の基本的な生活習慣を形成し、健康状態の維持・改善に必要な生活リズムを身につけられるよう支援する。また、健康な生活の基本となる食を営む力の育成に努めるとともに、楽しく食事ができるよう、口腔内機能・感覚等に配慮しながら、咀嚼・嚥下の接触機能、姿勢保持、手指の運動機能等の状態に応じた 自助具等に関する支援を行う。さらに、衣服の調節、室温の調節や 換気、病気の予防や安全への配慮を行う。

#### ③基本的生活スキルの獲得

- ・生活に必要な基本的技能の獲得こどもが食事、排泄、睡眠、衣類の着脱、身の回りを清潔にすること等の生活に必要な基本的技能を獲得できるよう、生活の場面における環境の工夫を行いながら、こどもの状態に応じて適切な時期に適切な支援をする。

- ・構造化等による生活環境の調整生活の中で、様々な遊びを通じた学びが促進されるよう環境を整える。また、障害の特性に配慮し、時間や空間を本人に分かりやすく構造化する。

- ・医療的ケア児への適切なケアの実施

適切に医療的ケアを受けられるよう、こどもの医療濃度に応じた医療的ケアの実施や医療機器の準備、環境整備を行う。

## 2 運動・感覚

- ①姿勢と運動・動作の基本的技能の向上
- ②姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用
- ③身体の移動能力の向上
- ④保有する感覚の活用
- ⑤感覚の補助及び代行手段の活用
- ⑥感覚の特性への対応

### 【支援内容】

#### ①姿勢と運動・動作の基本的技能の向上

日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を図る。

#### ②姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用

姿勢の保持や各種の運動・動作が困難な場合、姿勢保持装置など、様々な補助用具等の補助的手段を活用してこれらができるよう支援する。

#### ③身体の移動能力の向上

自力での身体移動や歩行、歩行器や車椅子による移動など、日常生活に必要な移動能力の向上のための支援を行う。

#### ④保有する感覚の活用

保有する視覚、聴覚、触覚、嗅覚、固有覚、前庭覚等の感覚を十分に活用できるよう、遊び等を通して支援する。

#### ⑤感覚の補助及び代行手段の活用

障害の状態や発達の段階、興味関心に応じて、保有する感覚器官を用いて情報を収集し、状況を把握しやすくするよう、眼鏡や補聴器等の各種の補助機器やICTを活用することや、他の感覚や機器による代行が的確にできるよう支援する。

#### ⑥感覚の特性への対応>感覚の特性(感覚の過敏や鈍麻)を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の支援を行う。

### 3 認知・行動

- ①認知の特性についての理解と対応      ②対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得  
(感覚の活用や認知機能の発達、知覚から行動への認知過程の発達、認知や行動の手掛かりとなる概念の形成)
- ③行動障害への予防及び対応

#### 【支援内容】

##### ①認知の特性についての理解と対応

一人一人の認知の特性を理解し、それらを踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるよう支援する。また、こだわりや偏食等に対する支援を行う。

##### ②対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得

・感覚の活用や認知機能の発達視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分活用して、これらの感覚から情報が適切に取得され、認知機能の発達を促す支援を行う。

・知覚から行動への認知過程の発達

取得した情報を過去に取得した情報と照合し、環境や状況を把握・理解できるようにするとともに、これらの情報を的確な判断や行動につなげることができるよう支援を行う。

・認知や行動の手掛かりとなる概念の形成物の機能や属性、形、色、音が変化する様子、大小、数、重さ、空間、時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手掛かりとして活用できるよう支援する。

##### ③行動障害への予防及び対応

感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防及び適切行動への対応の支援を行う。



## 4 言語・コミュニケーション

- ①コミュニケーションの基礎的能力の向上
- ②言語の受容と表出
- ③言語の形成と活用
- ④人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得
- ⑤コミュニケーション手段の選択と活用
- ⑥状況に応じたコミュニケーション
- ⑦読み書き能力の向上

### 【支援内容】

#### ①コミュニケーションの基礎的能力の向上

障害の種別や程度、興味関心等に応じて、言葉によるコミュニケーションだけでなく、表情や身振り、各種の機器等を用いて意思のやりとりが行えるようにするなど、コミュニケーションに必要な基礎的な能力を身につけることができるよう支援する。

#### ②言語の受容と表出

話し言葉や各種の文字・記号等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し表出することができるよう支援を行う。

#### ③言語の形成と活用

具体的な事物や体験と言葉の意味を結びつけること等により、自発的な発声を促し、体系的な言語を身につけることができるよう支援する。

#### ④人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得

個々に配慮された場面における人との相互作用を通して、相手と同じものに注意を向け、その行動や意図を理解・推測するといった共同注意の獲得等を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。

#### ⑤コミュニケーション手段の選択と活用

・指差し、身振り、サイン等の活用 指差し、身振り、サイン等を用いて、環境の理解と意思の伝達ができるよう支援する。

・手話、点字、音声、文字等のコミュニケーション手段の活用

手話、点字、音声、文字、触覚、平易な表現等による多様なコミュニケーション手段を活用し、環境の理解と意思の伝達ができるよう支援する。

・コミュニケーション機器の活用 機器(パソコン・タブレット等の ICT 機器を含む。)等のコミュニケーション手段を適切に選択、活用し、環境の理解と意思の伝達が円滑にできるよう支援する。

## ⑥状況に応じたコミュニケーション

コミュニケーションを円滑に行うためには、伝えようとする側と受け取る側との人間関係や、そのときの状況を的確に把握することが重要であることから、場や相手の状況に応じて、主体的にコミュニケーションを展開できるよう支援する。

## ⑦読み書き能力の向上

発達障害のあるこどもなど、障害の特性に応じた読み書き能力の向上のための支援を行う。

# 5 人間関係・社会性

①アタッチメント(愛着)の形成と安定

②遊びを通じた社会性の発達

③自己の理解と行動の調整

④仲間づくりと集団への参加

### 【支援内容】

#### ①アタッチメント(愛着)の形成と安定

・アタッチメント(愛着)の形成

こどもが基本的な信頼感を持つことができるように、環境に対する安心感・信頼感、人に対する信頼感、自分に対する信頼感を育む支援を行う。

・アタッチメント(愛着)の安定自身の感情が崩れたり、不安になった際に、大人が相談にのることで、安心感を得たり、自分の感情に折り合いをつけたりできるよう「安心の基地」の役割を果たせるよう支援する。

#### ②遊びを通じた社会性の促進

・模倣行動の支援

遊び等を通じて人の動きを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えを支援する。

・感覚・運動遊びから象徴遊びへの支援

感覚機能を使った遊びや運動機能を働かせる遊びから、見立て遊びやつもり遊び、ごっこ遊び等の象徴遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。

・一人遊びから協同遊びへの支援

周囲にこどもがいても無関心である一人遊びの状態から並行

遊びを行い、大人が介入して行う連合的な遊び、役割分担したりルールを守って遊ぶ協同遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。

【支援内容】

③自己の理解と行動の調整

大人を介在して自分のできることや苦手なことなど、自分の行動の特徴を理解するとともに、気持ちや情動の調整ができるように支援する。

④仲間づくりと集団への参加

集団に参加するための手順やルールを理解し、こどもの希望に応じて、遊びや集団活動に参加できるよう支援するとともに、共に活動することを通じて、相互理解や互いの存在を認め合いながら、仲間づくりにつながるよう支援する。



# 放課後等デイサービスガイドライン

## 1 健康・生活

- ①健康状態の維持・改善      ②生活のリズムや生活習慣の形成      ③基本的な生活スキルの獲得
- ④生活におけるマネジメントスキルの育成

### 【支援内容】

#### ①健康状態の維持・改善

・健康状態の把握と対応

健康な心と体を育て、健康で安全な生活を作り出すことを支援する。また、こどもの心身の状態をきめ細やかに確認し、平常とは異なった状態を速やかに見つけ出し、必要な対応をすることが重要である。その際、意思表示が困難であるこどもの障害の特性及び発達の過程・特性等に配慮し、小さなサインでも心身の異変に気づけるよう、きめ細かな観察を行う。

・リハビリテーションの実施日常生活や社会生活を営めるよう、それぞれのこどもが持つ機能をさらに発達させながら、こどもに適した身体的、精神的、社会的支援を行う。

#### ②生活習慣や生活リズムの形成

睡眠、食事、排泄等の基本的な生活習慣を形成し、健康状態の維持・改善に必要な生活リズムを身につけられるよう支援する。また、健康な生活の基本となる食を営む力の育成に努めるとともに、楽しく食事ができるよう、口腔内機能・感覚等に配慮しながら、咀嚼・嚥下の接触機能、姿勢保持、手指の運動機能等の状態に応じた自助具等に関する支援を行う。さらに、衣服の調節、室温の調節や換気、病気の予防や安全への配慮を行う。

#### ③基本的な生活スキルの獲得

・生活に必要な基本的技能の獲得

こどもが食事、排泄、睡眠、衣類の着脱、身の回りを清潔にすること等の生活に必要な基本的技能を獲得できるよう、生活の場面における環境の工夫を行いながら、こどもの状態に応じて適切な時期に適切な支援をする。

・構造化等による生活環境の調整

生活の中で、様々な遊びや体験を通じた学びが促進されるよう環境を整える。また、障害の特性に配慮し、時間や空間を本人に分かりやすく構造化する。

・医療的ケア児への適切なケアの実施

適切に医療的ケアを受けられるよう、こどもの医療濃度に応じた医療的ケアの実施や医療機器の準備、環境整備を行う。



### 【支援内容】

#### ④生活におけるマネジメントスキルの育成

障害の特性や身体各部の状態について理解し、それらが及ぼす生活上の困難や補助機器を用いる際の留意点等について理解を深め、状況に応じて、自己の行動や感情を調整したり、他者に対して主体的に働きかけたりしてより生活しやすい環境にしていくための支援をする。また、自分で何をするかアイデアを出しながら、自分の生活をマネジメントすることができるよう、こどもの意向を受け止めながら、自分で組み立ててできる行動を増やしていけるよう支援する。

## 2 運動・感覚

- ①姿勢と運動・動作の基本的技能の向上    ②姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用    ③身体の移動能力の向上  
④保有する感覚の活用    ⑤感覚の補助及び代行手段の活用    ⑥感覚の特性への対応

### 【支援内容】

#### ①姿勢と運動・動作の基本的技能の向上

日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を図る。

#### ②姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用

姿勢の保持や各種の運動・動作が困難な場合、姿勢保持装置など、様々な補助用具等の補助的手段を活用してこれらができるよう支援する。

#### ③身体の移動能力の向上

自力での身体移動や歩行、歩行器や車椅子による移動など、日常生活に必要な移動能力や、事業所外での移動や交通機関の利用など、社会的な場面における移動能力の向上のための支援を行う。

#### ④保有する感覚の活用

保有する視覚、聴覚、触覚、嗅覚、固有覚、前庭覚等の感覚を十分に活用できるよう、遊び等を通して支援する。

#### ⑤感覚の補助及び代行手段の活用

障害の状態や発達の段階、興味関心に応じて、保有する感覚を用いて情報を収集し、状況を把握しやすくするよう、眼鏡や補聴器等の各種の補助機器やICTを活用することや、他の感覚や機器による代行が的確にできるように支援する。

#### ⑥感覚の特性への対応

感覚の特性(感覚の過敏や鈍麻)を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の支援を行う。

### 3 認知・行動

- ①認知の特性についての理解と対応      ②対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得  
(感覚の活用や認知機能の発達、知覚から行動への認知過程の発達、認知や行動の手掛かりとなる概念の形成)
- ③行動障害への予防及び対応

#### 【支援内容】

##### ①認知の特性についての理解と対応

一人一人の認知の特性を理解し、それらを踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるよう支援する。また、こだわりや偏食等に対する支援を行う。

##### ②対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得

・感覚の活用や認知機能の発達視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分活用して、これらの感覚から情報が適切に取得され、認知機能の発達を促す支援を行う。

・知覚から行動への認知過程の発達

取得した情報を過去に取得した情報と照合し、環境や状況を把握・理解できるようにするとともに、これらの情報を的確な判断や行動につなげることができるよう支援を行う。・認知や行動の手掛かりとなる概念の形成物の機能や属性、形、色、音が変化する様子、大小、数、重さ、空間、時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手掛かりとして活用できるよう支援する。

##### ③行動障害への予防及び対応

感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防及び適切行動への対応の支援を行う。

## 4 言語・コミュニケーション

- ①コミュニケーションの基礎的能力の向上
- ②言語の受容と表出
- ③言語の形成と活用
- ④人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得
- ⑤コミュニケーション手段の選択と活用
- ⑥状況に応じたコミュニケーション
- ⑦読み書き能力の向上

### 【支援内容】

#### ①コミュニケーションの基礎的能力の向上

障害の種別や程度、興味・関心等に応じて、言葉によるコミュニケーションだけでなく、表情や身振り、各種の機器等を用いて意思のやりとりが行えるようにするなど、コミュニケーションに必要な基礎的な能力を身に付けることができるよう支援する。

#### ②言語の受容と表出

話し言葉や各種の文字・記号等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し表出することができるよう支援する。

#### ③言語の形成と活用

コミュニケーションを通して、事物や現象、自己の行動等に対応した言語の概念の形成を図り、体系的な言語を身に付けることができるよう支援する。

#### ④人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得

個々に配慮された場面における人との相互作用を通して、相手と同じものに注意を向け、その行動や意図を理解・推測するといった共同注意の獲得や場面に応じた言動・対応など人との関わり方についての学び等を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。

#### ⑤コミュニケーション手段の選択と活用

・指差し、身振り、サイン等の活用指差し、身振り、サイン等を用いて、環境の理解と意思の伝達ができるよう支援する。

#### ・手話、点字、音声、文字等のコミュニケーション手段の活用

手話、点字、音声、文字、触覚、平易な表現等による多様なコミュニケーション手段を活用し、環境の理解と意思の伝達ができるよう支援する。

#### ・コミュニケーション機器の活用機器(パソコン・タブレット等のICT機器を含む。)等のコミ

ュニケーション手段を適切に選択、活用し、環境の理解と意思

の伝達が円滑にできるよう支援する。

### 【支援内容】

#### ⑥状況に応じたコミュニケーション

コミュニケーションを円滑に行うためには、伝えようとする側と受け取る側との人間関係や、そのときの状況を的確に把握することが重要であることから、場や相手の状況に応じて、主体的にコミュニケーションを展開できるよう支援する。

#### ⑦読み書き能力の向上

発達障害のあるこどもなど、障害の特性に応じた読み書き能力の向上のための支援を行う。

## 5 人間関係・社会性

- ①アタッチメント(愛着)の形成と安定
- ②情緒の安定
- ③他者との関わり(人間関係)の形成
- ④遊びを通じた社会性の発達
- ⑤自己の理解と行動の調整
- ⑥仲間づくりと集団への参加

### 【支援内容】

#### ①アタッチメント(愛着)の形成と安定

##### ・アタッチメント(愛着)の形成

こどもが基本的な信頼感を持つことができるように環境に対する安心感・信頼感、人に対する信頼感、自分に対する信頼感を育む支援を行う。

・アタッチメント(愛着)の安定自身の感情が崩れたり、不安になった際に、大人が相談にのることで、安心感を得たり、自分の感情に折り合いをつけたりできるよう「安心の基地」の役割を果たせるよう支援する。

#### ②遊びを通じた社会性の促進

##### ・模倣行動の支援

遊び等を通じて人の動きを模倣することにより、社会性の発達や対人関係の構築を支援する。

##### ・感覚・運動遊びから象徴遊びへの支援

感覚機能を使った遊びや運動機能を働かせる遊びから、見立て遊びやつもり遊び、ごっこ遊び等の象徴遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。

##### ・一人遊びから協同遊びへの支援

周囲にこどもがいても無関心である一人遊びの状態から並行遊びを行い、大人が介入して行う連合的な遊び、役割分担したりルールを守って遊ぶ協同遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。



### 【支援内容】

#### ③自己の理解と行動の調整

自分のできることや苦手なことなど、自分の行動の特徴を理解し、自己を肯定的に捉えられる機会を通じて、気持ちや情動を調整し、状況に応じた行動ができるように支援する。

#### ④仲間づくりと集団への参加

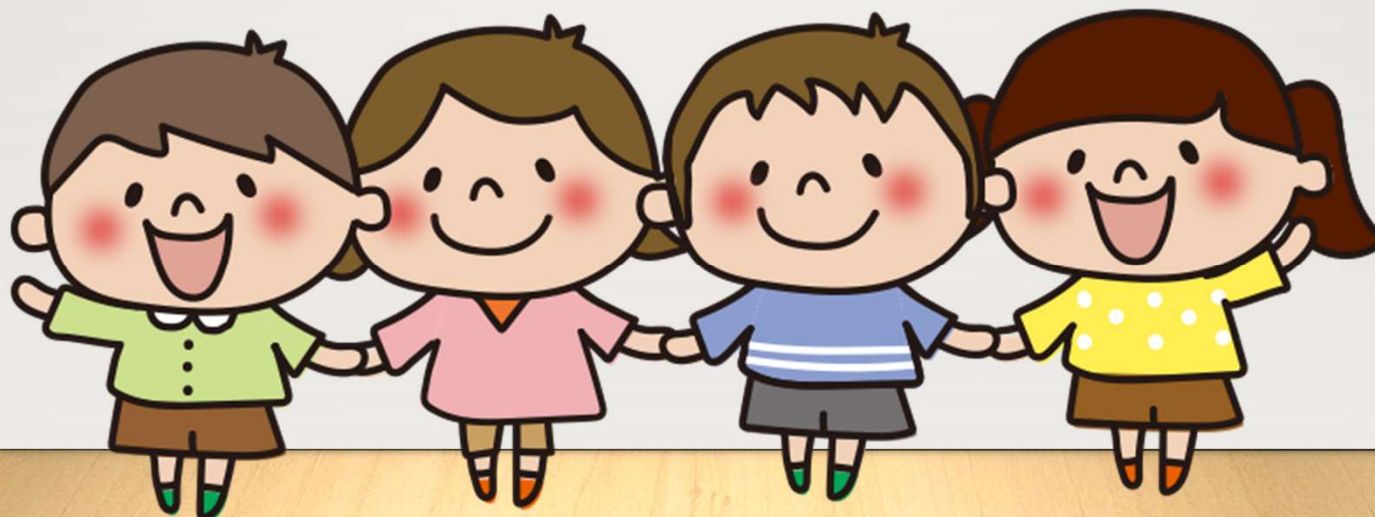
集団に参加するための手順やルールを理解し、こどもの希望に応じて、遊びや集団活動に参加できるよう支援するとともに、共に活動することを通じて、相互理解や互いの存在を認め合いながら、仲間づくりにつながるよう支援する。

#### ⑤情緒の安定

自身の感情や気持ち、生理的な状態像に関心を持ち、その変化の幅を安定させることに興味を持つことができるよう援助し、変化の幅が小さく安定した情緒の下で生活ができるよう支援する。

#### ⑥他者との関わり(人間関係)の形成

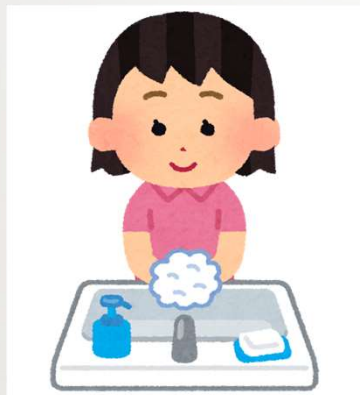
他者の気持ちや意図を理解し、他者からの働き掛けを受け止め、それに応ずることや場に応じた適切な行動ができるように支援する。



# 1 健康・生活 支援プログラム(例)



「健康状態の管理」  
来所時と退所時の検温と、感冒症状や表情などの状態確認をおこないます。



「感染症予防」  
来所時や食事前に手洗い・うがい、手指消毒を支援します。帰りの会の時に声掛けを行い習慣化を目指します



「クッキング」  
長期休暇を利用し、「食」に興味関心を持ってもらえるよう支援します。食事のマナーの習得も目指します。



「買い物支援」  
買い物ごっこや、課外活動での買い物体験で、自己選択と金銭勘定など買い物経験の機会を提供します。



「季節のイベント」  
節分やひな祭り、クリスマスパーティーなど、季節を感じ、四季や文化の理解を促し、心身の発達を目指します。

## 2 運動・感覚

## 支援プログラム(例)



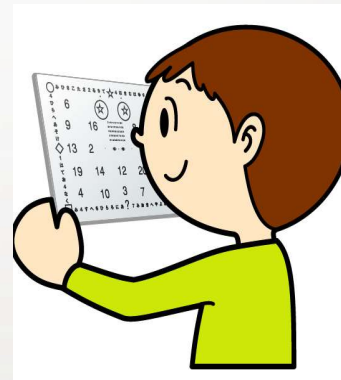
### 「粗大運動」

遊びの中で、体幹トレーニングやボディイメージの確立など、身体作りを支援します。課外活動で公園や公共施設などで全身を使った遊びも提供し体力づくりにも取り組みます。



### 「微細運動」

はさみやお箸の使い方、ボタンの練習など、日常生活に必要な手指先の機能向上を目指します。積み木などで空間認知の訓練も取り入れています。



### 「ビジョントレーニング」

眼球を動かす筋肉、眼筋を鍛えることで両目を使って目標物を正確に捉えたり、目からの情報を脳で処理して体を動かす運動機能を向上させるトレーニングです。



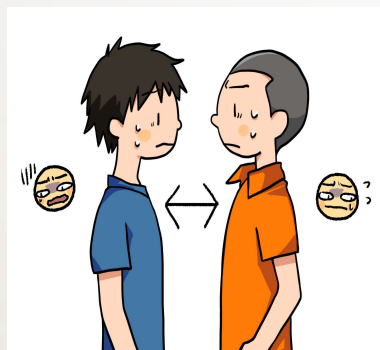
### 「感覚遊び」

五感を使って楽しむ感触遊びで、自分の身の回りの物へ興味関心をもて、想像力や思考力を高めます。感覚情報をより効果的に処理し、統合する能力を高める感触遊びを提供します。

### 3 認知・行動 支援プログラム(例)



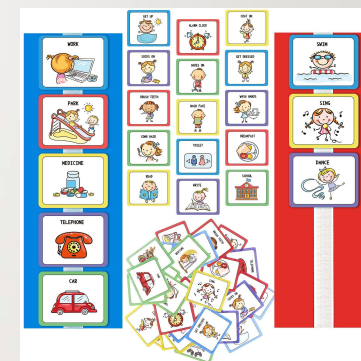
「リズム遊び」  
リトミックやリズムジャンプなど、聴知覚、感覚運動の発達、基礎能力の発達を促すプログラムを取り入れています。



「SST」  
ソーシャルスキルトレーニング(社会的行動)では、人との距離感(パーソナルスペース)など社会的スキルを身に着けるトレーニングを取り入れています。



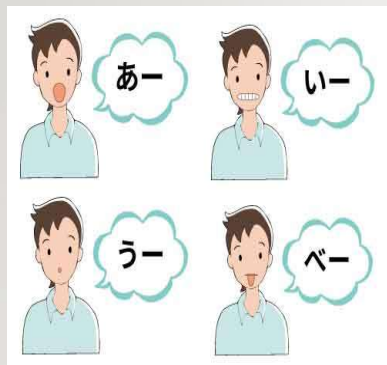
「運筆・視写練習」  
発達段階や障がいの特性に応じて、読み・書きを練習します。プリントを提供し運筆や板書の練習を取り入れています。学習に対するストレスを減らし、やる気を高めます。



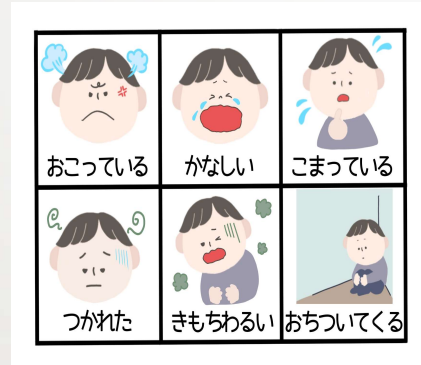
「視覚支援」  
スケジュールボードや絵カードを使って行動の見通しを立て、認知過程の発達を支援します。



## 4 言語・コミュニケーション 支援プログラム(例)



「発語訓練」  
発達段階や障がいの特性に応じて、口腔体操や発声練習で発語を練習します。単語カードやプリントで音韻認識、視覚認識、聴力などの多角的な視点で評価と訓練を行います。



「SST」  
ソーシャルスキルトレーニング(社会的行動)  
絵カードや表情カードなどのコミュニケーションツールを使用した支援を行います。自分の意思を伝える力と相手の表情を読み取る力を養い、コミュニケーション能力の向上を目指します。



「ごっこ遊び」  
おままごとなど、自分の意図を伝えたりする機会が増えることで、コミュニケーション能力や協調性が育ちます。象徴機能が発達することで、想像力が豊かになります。



「就学前プログラム」  
年長児を対象に、絵カードなどを用いて、言語(2語文/3語文/名詞/動詞/形容詞/助詞など)指示理解に関するプログラムを実施。ひらがなや数字にふれ、就学に備えます。

## 5 人間関係 ・ 社会性 支援プログラム(例)



「模倣遊び」  
支援者の言葉と動きの真似をする遊びです。想像力だけでなく、言語能力・自己認識・自己発揮・コミュニケーション能力・生活に対する興味関心・他者の気持ちの理解・協力することの楽しさなど、多様な側面の成長を目指します。



「SST」  
ソーシャルスキルトレーニング（社会的行動）では、トイレの使い方や、実際に公共交通機関を利用して、乗り方や、声のものさしなど公共でのルールやマナーを実践で学びます。



「課外活動」  
長期休暇などの学校休業日に、地域の商業施設や公共施設に出かけ、集団移動や公共スペースでのルールとマナーを学ぶ機会を提供します。



「社会見学・職場体験」  
地域の消防署や警察署などを見学したり、地域の福祉施設やコンビニなどで職場体験をしたり、社会参加の場を設け、社会性の構築を目指します。